

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 県ヶ丘&池工合宿登山

11月27日県ヶ丘高校と池田工業の合同で山行を行なった。場所は来年度の県大会会場となる大川入山(下伊那郡阿智村 1907m)、目的の第一はもちろん県大会の下見であるが、交流ももう一つの目的とした。縦走をするのだが、池工単独では車回しの困難が予想されたので、県ヶ丘の松田さんに声をかけ、合同で実施と相成った。県ヶ丘は顧問が二人(松田、筒井)に生徒も8名という大所帯だったので、合同でなくても計画ができたのだが、小生の申し出を松田さんが快く聞きとどけてくれた。顧問の関係が築けていると、単独の学校では難しい山行であっても実施することができる。生徒にとっても、他校生と一緒に行動することは刺激にもなる。各校共に顧問の都合や生徒数などの関係で単独では難しい場合など、こういう合同での計画を積極的に活用していくことが、もっと考えられてもいいのではないだろうか。

さて、肝心の登山だが、池工は治部坂スキー場から時計回りに大川入山に登り、あららぎスキー場へと下山した。県ヶ丘は2班に分れ、松田さんの引率する1班は池工と同じコース、もう1班は筒井さんが引率して逆回りという交差縦走。9時30分に登山口



「大川入山」山頂で

発。読図をしながらゆっくり登っていく。登るにつれ、青空の彼方に南アルプスの山並みが白く浮かび上がる。細かいアップダウンを繰り返して、高度を次第にあげていく。池工と県陵の高校生にとって、県最南端のこの山と、そこから見える山はみな普段とは違う世界。もともと「山」は脱日常であるが、お膝元の北アルプスとは違った山の魅力に笑顔がこぼれる。山頂からは北アルプスを左手に、八ヶ岳を

経て文字通り中央に中央アルプスをいただき、右手には南アルプスの大パノラマが広がる。山頂では逆コース組とも合流して15人の大パーティ(写真参照)となった。

天気はいいが、11月下旬の山頂の寒さはやはりそれなりであった。筒井さんが引率する「あららぎ」からのパーティの到着が遅れたが、聞けば地図上の登山道通りに歩いていたら道がなく、切り立った岩場で往生したという。それはそれでおもしろかったということだったが……。実際、あららぎからの道は地図とはずれている。ちなみに県高体連のHPにはGPSのログがアップされているので参考の上、今後こちらから入山される学校は注意されたい。思わぬ藪漕ぎと岩登りが面白かったとは、経験のある山やである筒井さんの言。一部スリングで生徒を引っ張り上げたとも聞いたが、生徒はビビったかも……。頂上からはまた二手に分れて下山した。池工の生徒にとっては本格的な地図読みは今回が初めてであったが、松田さんと小生の機関銃のような読図講義、少しは身についただろうか……。午後4時、つるべ落として暗くなる前に何とか下山。すでに冬期閉鎖している「もみじ平キャンプ場」(県大会でも使う予定)を、無理をいって使わせていただいた。

## 木曽青峰定時制&池工合同クライミング

翌28日は、県ヶ丘とは別行動。日本海を北上した低気圧が発達して冬型が強まる中、



我が池工は清内路峠から木曽谷へ抜け、木曽町で今年度は昨年まで小生が面倒を見ていた木曽青峰高校定時制の諸君とジョイント。昨年まで私と木曽・木曽青峰高校のホームグラウンドであった権現滝屏風岩で岩登りを行なった。

池工の生徒は、これまで大町の人工壁、学校のボルダーで練習してきたが、外岩は初めての体験である。時雨っぽく、昼頃には小雨となったので、打ち

切りとしたが、両校の生徒とも外岩の感触を味わうことができた。登山と岩登り、他校との交流、2日間中身の濃い合宿だった。

### 「ビーコン実地検証」と「温暖化による雪崩の変化の講演会」

ビーコンの実地検証と、雪崩および山岳林研究者である若林隆三氏の講演会が開催されますので紹介します。紹介して下さったのは白馬村在住ACTの高木律子さんです。

日時：2010年12月18日（土） 8:30 集合

9:00～13:00：PIEPS クリニック

現在、各メーカーからさまざまな雪崩ビーコンが発売されています。いくら優れたビーコンをお持ちでも、ユーザーはご自分のビーコンの特性を正しく理解していないといざという時に役に立ちません。このクリニックではPIEPSを始めとする各種ビーコンの特性を比較検証し、その能力を客観的に判断する機会をご提供致します。（このクリニックは埋没者を検索するトレーニングではありません。）

14:00～15:30：講演会「日本アルプス温暖化による雪崩の変化」講師：若林隆三氏

雪山が厳冬の降雨によって氷の山に変わったために、浅い雪崩、高速雪崩、森林ブレーキの効かない雪崩、遠くまで到達する（見通し角の小さい）雪崩が増えていくようです。先シーズンの志賀高原、榎池高原、乗鞍高原位山、千畳敷極楽平などの事故・被害が好例です。温暖化により、湿雪雪崩、スラッシュ雪崩がメインになるかと予想していたのに、実際は高所・バックカントリーでは「スリップ雪崩」の時代に突入したのです。

場所：白馬クロスカントリー競技場（スノーハープ）北安曇郡白馬村大字神城 3003

主催：株式会社ケーイーエム（PIEPS 製品輸入総代理店）

特定非営利活動法人 ACT（Avalanche Control Team）

参加費：無料 定員：40名 雨天決行

問い合わせ・申し込み先：お名前、ご住所、電話番号、生年月日を明記の上下記へ。

株式会社ケーイーエム 担当：山崎 康司（やまざき やすし）

TEL：048-687-8255 FAX：048-687-8265 E-mail：[yyamazaki@kem.japan.com](mailto:yyamazaki@kem.japan.com)

特定非営利活動法人 ACT 理事 山岸 慎英（やまぎし のりひで）

TEL：090-7827-9013 FAX：0261-72-5646 E-mail：[nolly-y@vesta.ocn.ne.jp](mailto:nolly-y@vesta.ocn.ne.jp)

ご用意頂く物：防寒着、お持ちのビーコン（なくても構いません）、筆記用具、雨具、等